

## 平成 29 年度第 2 回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

### 1 日時

平成 30 年 3 月 19 日（月曜日）10 時 00 分から 11 時 30 分

### 2 場所

大阪イノベーションハブ（O I H）

### 3 出席者

正城委員長、東委員、竹村委員、田中委員

事務局（吉川 大阪市経済戦略局理事、馬越 同局イノベーション担当部長、柳内 同局イノベーション担当課長、小林 同局イノベーション担当課長代理、他）

### 4 議題

- (1) 平成 29 年度グローバルイノベーション創出支援事業の活動状況と評価について
- (2) 今後の取組みについて

### 5 会議概要

〔主な発言内容〕

- ・既存産業中で行われる新規創業と、スタートアップでは、支援に必要なアプローチが全然違う。O I H が実施しているのは、既存産業における個別の事業のアドバイスではなく、複数の物事をつなげることで新たな価値をつくるという点がポイントである。
- ・イノベーションやスタートアップへの理解を、市民にも日本の国内の方々にも、広く理解していただくのも、この事業の非常に重要なミッションだと思う。
- ・今大阪にある資産を活かして実施している深センへの派遣プロジェクト等の取り組みは素晴らしい。O I H のグローバルネットワークを深化させていくと良い。
- ・海外のメガシティでは、スタートアップと共生的なまちづくりを始めている。大阪も国連のレポートでグローバルメガシティに位置付けられており、ニューヨークなどの取り組みを参考にしても良い。
- ・目標を確実に達成している。国内の他地域に比べて大阪は素晴らしいと思うが、海外に目を向けるともう少し高い目標を持ってやっていないといけない。現実的な目標と、目線を上にあげるチャレンジ的な目標があっても良い。
- ・海外では、スタートアップの創業者は 3 割以上が自国民以外の人といわれている。大阪も、海外にいるイノベーション人材に魅力を感じてもらえるような情報発信や施策があると良い。
- ・海外にいる人材をいかに呼び込むかは、若い人を呼び込むことと同じくらい重要。年間 1,000 万人を超える人が大阪に来ているので、そういう人を取り込むのも面白い。
- ・イノベーションやスタートアップに対する、既存企業の理解も重要である。大きな組織とスタートアップがつながっていくようなまちになれば良い。

- ・大企業においても、人材の流動性が高まったり、横連携組織が生まれたりしている。
- O I Hがハブとして取り組めるのではないか。
- ・ビックデータの活用など、データ連携も急速に進んでおり、次のアクションとして重要である。
  - ・平成29年度の評価に関しては、事務局の自己評価を概ね妥当と評価し、本日の各委員のコメントとあわせて、後日取りまとめる。